

2010年度（平成22年度）

事業計画書

自 2010年4月1日
至 2011年3月31日

社団法人企業メセナ協議会

<設立 20 周年を迎えて>

企業メセナ協議会は、本年 2 月に設立 20 周年を迎えました。1990 年の設立時には、社会を構成する企業市民として社会貢献・メセナ活動に取り組むことが期待されましたが、この間、企業を取り巻く環境は大きく変化してきました。特に昨今は CSR の浸透とともに、企業も幅広い分野で社会的要請に応え、責任を果たしていくというコンセンサスができつつあります。メセナを CSR の一環に位置付ける企業が増えるとともに、利益の社会還元ではなく、持続可能な社会を実現するための恒常的な投資として捉える考え方も出てきています。

こうした中で、まちづくりや地域活性化、青少年育成、福祉などさまざまな社会課題に対して芸術文化が果たせる役割を見出しつつ、メセナ活動に取り組む企業があらわれ、志を同じくする NPO や文化団体等との連携も進みました。さらに資金支援だけでなく、施設や製品、マンパワーや独自のノウハウの提供など、多彩な経営資源を活かした支援が工夫されており、その多様化と広がりを見張るものがあります。

しかし一方で、2008 年秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況は、企業メセナの推進にも影響を与えました。大幅な収益減により経費削減が迫られる中で、メセナ活動費の縮小や協議会退会に至った会員も少なくありません。そこで、この 20 周年の節目においては「原点」に立ち戻り、企業メセナの理念や社会的意義についてあらためて議論を深め、同時に、企業メセナがこれまで果たしてきた成果を明らかにし、広く発信していく機会にしたいと思います。

また近年は文化政策についての提言を数次にわたり発表しており、なかでも緊急提言「ニュー・コンパクト～文化振興による地域コミュニティ再生策」は大きな反響を呼びました。文化政策提言活動について協議会への期待が急激に高まる中、企業メセナを含め文化振興の環境改善に資する活動に引き続き取り組みたいと考えます。「文化支援プラットフォーム」の機能充実をはかることで協議会のプレゼンスを高め、賛同者を拡大し、入会促進など組織、財政基盤の強化に向けた活動を進めてまいります。

1. 啓発・普及事業（6,957千円）

1.1 セミナー等の開催（3,686千円）

設立 20 周年の節目にあたる本年度は、「メセナのインパクト、アートのインパクト」を全体テーマに、年 8 回程度の主催企画を行います。各回それぞれに新たな要素を盛り込み、①未実施地域での開催、②協議会他事業との連動（国際交流事業、『メセナ note』、調査事業との連携）、③協議会会員との協働（共催、共同企画、講師の依頼）をめざします。テーマやタイトルを工夫して関心層を掘り起こし、外部団体との共催を積極的に推進することで、本事業の目的の一つである「広く一般の企業メセナに対する理解促進」を図ります。芸術団体向けの内容のセミナーも引き続き行うほか、フィールド視察では海外視察も検討します。

1.2 地域メセナ組織との交流（594千円）

全国メセナネットワークへの参加を通じて各地のメセナ組織と情報交流を図っていますが、同ネットワークも設立 15 周年の節目にあたる本年度は、年 1 回の「全国メセナネットワーク会議」を東京にて、協議会の 20 周年記念行事（9 ページ参照）とあわせて、企画運営を担ってまいります。

本ネットワークは従来、ゆるやかな相互連絡組織として活動してきましたが、地域メセナセクターとしてメッセージやモデルを発信し、文化振興を通じた地域活性化について議論する「開かれたネットワーク」への転換をめざしています。さらにネットワークの活動に限らず、地域に根ざしたメセナの存在感や期待は高まっており、各地の企業、アート NPO、自治体を巻き込む機会として「全国会議」を活かしてまいります。

1.3 広報活動の強化（2,016千円）

各メディアとの恒常的なリレーション強化と地方メディアとの接点拡大に努めつつ、「メセナ アワード」や「メセナ活動実態調査」などの事業、政策提言に関する活動等を中心に積極的な広報活動を展開します。

また上記事業に関する広報活動のほか、年間を通じたメセナの話題や動向をまとめて発信するなど、設立 20 周年を機に企業メセナに対する気運を高め、あわせて協議会の認知度向上に努めます。

1.4 関西事務所（661 千円）

助成認定活動の相談窓口対応を継続しつつ、協議会の西日本地域での啓発・普及事業の拠点の位置づけとし、諸事業を展開していきます。

2. 情報集配・仲介事業（20,241 千円）

2.1 情報発信（8,673 千円）

2.1-1. 情報誌の発行（6,409 千円）

「コンパクトながら読み応えのある専門誌」を目指し、毎号、企業メセナと文化振興に関する特集テーマを設けて構成してきた機関誌『メセナ note』は、協議会 20 周年を機に、2010 年 3 月・64 号より体裁を変えて発行いたします。ページ数を倍増し、読みやすいレイアウトに変更のうえ、企業メセナの専門情報誌として内容の充実に努めます。

他の事業と連動した特集企画や、コンテンツのウェブ掲載など、協議会機関誌としての発信力の向上に努めます。

[発行要領]

□発行月 年 4 回（6・9・12・3 月 15 日発行予定）

特別号「メセナリポート」（メセナ活動実態調査結果まとめ）

□発行部数 約 4,000 部

会員ほか一般購読者に送付、各種セミナー等で無料配布

※なお本誌発行にあたっては、会員企業より協賛をいただく予定です。

[2009 年度協賛企業]

アサヒビール、板室観光ホテル大黒屋、近畿労働金庫（上半期/61・62 号）、サントリーホールディングス、資生堂、損害保険ジャパン、第一生命保険、大日本印刷、ベネッセホールディングス、ワコール

2.1-2. 情報システムによる発信（ウェブサイト運営）（2,264千円）

企業メセナおよび文化振興の総合情報源として、かつ協議会の発信力を強化する中核媒体として、オフィシャルサイト(<http://www.mecenat.or.jp/>)をリニューアル公開します。

各社のメセナ情報や協議会の活動など最新で動きのある情報発信をめざし、一方で20年間の事業活動で蓄積された情報資産を活用するためのアーカイブとしての構築を進めます。近年、地域活性化、教育、福祉、観光、環境あるいは広告や産業デザインなど多様な隣接領域からアクセスされる傾向にあり、潜在的な関心層を呼び込めるコンテンツ構成、初心者向けのナビゲーション充実をめざします。

あわせて、スタッフ目線で日々の活動の臨場感、旬のアート、お役立ち情報、政策の動向などを伝えるブログ(<http://mecenat.jugem.jp/>)を運営します。

2.2 情報システム（システム管理/データベース運営）（4,646千円）

引き続き、各事業の業務効率化に対応したシステム環境を整備します。本年度は、サーバー入れ替えのため、事業推進への支障を抑えた円滑な移行に注力します。また、個人情報ほか機密データを保護するため、ネットワークセキュリティを強化いたします。

「メセナ活動実態調査」に基き、メセナに取り組む企業・企業財団の情報を提供するオンラインデータベース「メセナビ」(<http://www.mecenavi.info/>)の2010年度版を制作します。各社情報における外部リンク、およびオフィシャルサイトとの連動性を高めるべくコンテンツを改善します。

2.3 コーディネート事業（4,794千円）

主に会員企業のメセナプログラムの企画・運営を連携して行なうことにより、具体的なメセナプログラムのノウハウを蓄積し、新たなメセナの手法をともに開発します。また、本事業を通じて事務局が得た経験・知見を協議会事業に還元することに努めます。

今後の展開については、本事業に関する問い合わせや相談はあるものの、事業受託にまで発展するケースがないことから、事業化の仕組みづくり（事業の認知度向上）と運営体制の整備（局内のスタッフ体制、外部との協力体制づくり）をはかります。

[現在継続中の事業]

企業・団体	概要
(財)アサヒビール 芸術文化財団	「すみだ川アート・プロジェクト」の実施
トヨタ自動車（株）	「トヨタ・アートマネジメント」事業の企画・運営（アートマネジメント総合情報サイト「ネットTAM」）

2.4 資料収集（1,696千円）

メセナライブラリー（事務局内）は、企業のみセナ・社会貢献、文化政策、アートマネジメント等に関連する資料の収集公開を行っています。昨年までで閲覧利用環境が概ね整備できたので、本年は、蔵書の棚卸、蒐集基準など保管面を見直し、資料増加による諸問題の解決をめざします。

[現在の開架資料]

書籍・報告書 約1,300冊、企業・企業財団の資料 約1,000社、新聞・雑誌掲載記事、各機関の定期刊行物、映像資料約300点

2.5 出版（432千円）

既存の出版物（メセナノート、白書、メセナ白書シリーズ、『なぜ企業はメセナをするのか？』、セミナーシリーズ、報告書等）の販売管理を引き続き行います。セミナー開催時や、『企業メセナへのアプローチガイド』を活用した「アプローチセミナー」の開催など効果的な販売に努めます。

2.6 外部協力・相談対応

企業、行政、芸術文化団体、NPO、教育機関等からの運営委員、講師、企画協力、原稿執筆等の協力要請は増加傾向が続いています。本年度も30～40件の依頼が予想されますが、「文化支援プラットフォーム」としてのプレゼ

ンスを高める活動と位置づけ、積極的に対応していくとともに、これまでの実績・体制の整理（見える化）に取り組みます。

3. 調査研究事業（11,812 千円）

3.1 調査（7,581 千円）

メセナ活動実態調査

本年度も調査部会の協力を得て、より多くの企業におけるメセナ活動の実態把握を行い、さまざまな事例の発掘をめざすとともに、調査結果を踏まえて長期的な動向および課題などの分析に取り組みます。ここ数年続けている「エピソード評価」を中長期的な視点で継続するとともに、企業と協働した評価の実践を目指します。また、隔年で行っている財団調査も実施します。

□調査対象 民間企業約 4,400 社

□実施時期 2010 年 4 月～5 月

□調査方法 郵送によるアンケート

□調査結果の発表方法

① 「メセナリポート 2010」（『メセナ note』特別号）

② メセナ活動データベース『メセナビ』

③ 協議会ホームページ

④ 調査部会報告書の作成

3.2 研究（4,231 千円）

協議会 20 周年（研究事業開始から 10 年）に際し、これまでの研究事業の成果を体系立てて整理・発信し、協議会の「調査研究機能」の見える化をはかります。ウェブサイトの情報やドキュメントを蓄積するなどにより、会員はじめ一般の方々に研究成果を活用いただけるような環境を整備します。

また引き続き、メセナの環境整備や文化政策の充実をめざして、政策提言活動にも注力します。

4. 顕彰事業（13,429千円）

メセナ アワード 2010

本年度も大賞部会の協力を得て、文化庁との連携のもとに、「メセナ大賞」と「文化庁長官賞」の2部門からなる「メセナ アワード」を実施します。顕彰事業としても20回目となる今回、周知により一層の力を入れ、全国各地の企業・企業財団による幅広いメセナ活動を自薦・他薦により募ります。近年、応募企業の規模や活動領域、活動方法が多彩になっていることから、特に地域の創意工夫に満ちた取り組みに目を向けるよう、通年にてメセナ情報の収集に努めます。

□募集期間 4月～5月

□審査会 8月下旬・9月中旬（2回）

□贈呈式 11月下旬～12月上旬

※日程調整中、会場：スパイラルホール（東京港区）予定

□後援 文化庁

なお2009年度より3年任期で、以下の方々に審査委員を委嘱しています。

逢坂恵理子（横浜美術館館長）

木下直之（東京大学教授、文化資源学研究専攻）

小沼純一（音楽・文芸批評、音楽文化論、早稲田大学文学学術院教授）

白石美雪（音楽評論、音楽学、武蔵野美術大学教授）

扇田昭彦（演劇評論家、静岡芸術文化大学特任教授）

中谷 巖（三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事長）

鷲田清一（大阪大学総長）

福地茂雄（企業メセナ協議会理事長）

5. 国際交流事業 (1,878 千円)

本年は昨年度に引き続き、情報の収集・発信に取り組みます。既存の情報を活用しやすい環境に整備するとともに、海外メセナに留まらず、海外の文化政策等の情報収集に努めます。また、駐日大使館文化部等との連携も強化し、情報交換を行います。

新たな試みとしては、メセナノートの部分英訳を行い、最新の日本の企業メセナ情報の発信にも努めます。

※国際メセナネットワーク会議等が開催される場合は出席予定。

6. 助成事業 (助成寄付金額 500,000 千円／業務費 10,346 千円)

助成認定制度

本制度の利用状況は、10ヶ月分の利用実績において、申請件数、寄付件数、寄付金額のいずれも減少しています。現段階ではっきりとした原因は不明ですが、引き続き動向を注視してまいります。

また、「新しい公共」の概念のもと、公益活動への寄付については関心が高まることが予想されるため、新法人移行に伴い、より使いやすい制度にすべく年度内に整備完了します。あわせて、全国相談窓口と連携するなど、広報にも努めます。

[最近の助成認定実績]

年 度	1994	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009※
申請件数	103	246	276	245	213	222	239	160
認定件数	83	234	256	234	206	209	227	147
寄付件数	159	1,001	1,643	1,738	1,515	1,447	1,540	1,164
金額 (万円)	19,705	46,113	64,932	76,581	120,382	104,365	104,113	50,350
1件当り(万円)	123	46	39	44	79	72	50	43

※2009年度は10ヶ月の実績(申請件数:5回分/年間6回、認定件数5回分/年間6回)

7. 周年事業 (3,235 千円)

企業メセナ協議会設立 20 周年を迎える本年は、各事業において 20 周年の節目にふさわしいテーマ企画を推進してまいります。

また記念行事として、各事業を横断する公開シンポジウムを開催いたします。メセナアワードにより蓄積した活動事例や、メセナ活動実態調査で収集したデータ等の紹介を通じて、企業メセナの「いま」を広く発信するとともに、メセナの理念や社会的意義について、あらためて議論を深め共有する場をめざします。実施にあたっては、今後の組織運営の展開の足がかりとして、外部との連携や広報拡大にも意識的に取り組みます。あわせて、資料・記録等をまとめた媒体を制作し、中期的な広報ツールとして活用してまいります。

8. 入会促進活動

昨今の深刻な経済不況を反映して退会会員が相次ぎ、現正会員数は、2008 年 6 月比 17 社減（年会費 26 口減）の 132 社（328 口）となっています。さらに既に決定している会員の口数減が 20 数口あり、2010 年度は厳しい財政でのスタートですが、情報提供など役員、会員各位のご協力もいただきながら入会促進活動を推進し、正会員 140 社、準会員 40 団体への会員数回復をめざします。なお 2009 年度は 28 社にアプローチし 2 社に入会いただきました。

[年度別会員数推移（毎年度 6 月の総会時点）]

年度	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
正会員 (口数)	168 (447)	183 (470)	173 (458)	169 (460)	168 (470)	175 (471)	172 (475)	168 (468)	166 (471)	167 (470)
準会員 (口数)	29 (29)	34 (36)	39 (42)	42 (45)	40 (44)	42 (46)	45 (48)	42 (43)	41 (44)	42 (44)
合計 (口数)	197 (476)	217 (506)	212 (500)	211 (502)	208 (514)	217 (517)	217 (523)	210 (511)	207 (515)	209 (514)
年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010.3
正会員 (口数)	168 (447)	159 (396)	149 (364)	146 (368)	147 (361)	146 (354)	149 (361)	149 (354)	137 (333)	132 (328)
準会員 (口数)	41 (42)	42 (42)	39 (39)	41 (41)	39 (40)	39 (40)	40 (40)	39 (39)	39 (39)	39 (39)
合計 (口数)	209 (489)	201 (438)	188 (403)	187 (409)	186 (401)	185 (394)	189 (401)	188 (393)	176 (372)	171 (367)

以上

<部会体制>

部会メンバー

(敬称略)

[調査部会] (2010 年度)

部会長 舟橋 香樹 (大日本印刷)
嶋田実名子 (花王)
久保 豊 (資生堂)
富田 秀実 (ソニー)
大野 マリ (日本オラクル)
柴崎 敏男 (三井物産)
松代 隆子 (吉田秀雄記念事業財団)
※他調整中

[研究部会] (2010 年度)

部会長 加藤 種男 (アサヒビール)
市村作知雄 (アートネットワーク・ジャパン)
澤田 澄子 (キヤノン)
樋口 昌樹 (資生堂)
片山 正夫 (セゾン文化財団)
高萩 宏 (東京都歴史文化財団)
中山 直人 (トヨタ自動車)
吉本 光宏 (ニッセイ基礎研究所)
金村 俊治 (パナソニック)

[大賞部会] (2009～2010 年度)

部会長 一橋 忠 (資生堂)
市村 友一 (朝日新聞)
尾崎 宣之 (京都服飾文化研究財団)
佐々木 亮 (サントリー芸術財団)
丹保 有充 (損害保険ジャパン)
君島 由子 (第一生命)
田中 典子 (パナソニック)